

⑬大須地区自転車通行空間整備事業

受賞機関 国土交通省 中部地方整備局 名古屋国道事務所

キーワード 社会実験、自転車通行空間の創出、道路空間の再配分、地域住民との合意形成

全建賞審査委員会の評価ポイント

多車線の車道のうち第1走行車線を自転車専用通行帯に再編する取組。社会実験による自転車専用通行帯の整備効果の実証などにより利用者・地域の合意形成と事業への理解促進を図った点や、単なる道路側の施策だけでなく、市と連携した駐輪場の整備を進めた点が評価された。

自転車通行空間の創出に当たり、道路空間の再配分(車線減少)による「①自転車専用通行帯の整備」を行った。その際、沿道施設や道路利用状況を踏まえ「②観光バスや貨物車の停車帯の整備」も行った。また、歩行空間の確保及び駐輪環境の向上のために名古屋市と連携し「③駐輪場の整備」を行った。

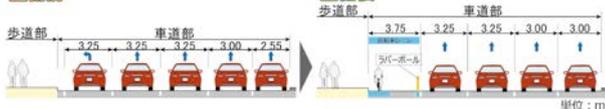
1. はじめに

愛知県名古屋市中区大須地区における国道19号は、歩道上に駐輪された自転車により歩行空間が狭くなっており、さらに歩道を通行する自転車が多く、児童も含め歩行者と自転車が錯綜する状況であった。そのため、地域から安全・安心な歩行空間・自転車通行空間の確保が求められており、令和4年度に自転車通行空間及び自転車駐輪場が整備された。

2. 事業の概要

平成30年6月に、地域住民及び学校関係者、学識者、行政機関がメンバーとなった「大須地区安全な自転車利用に関する連絡会」を設立し、課題を共有した上で対策案について議論し社会実験や現地地点検を行い、自転車通行空間等の整備に至った。

①自転車専用通行帯の整備



②観光バスや貨物車の停車帯の整備



③駐輪場の整備

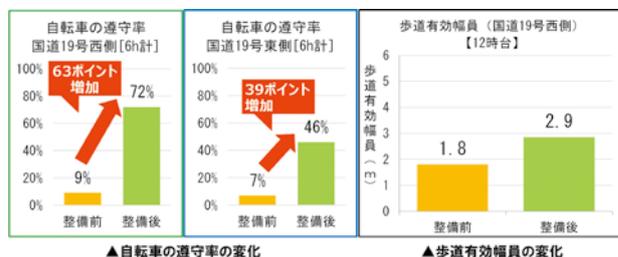


大須地区の整備状況

3. 事業の成果

自転車通行空間を整備したことにより、自転車の車道走行の遵守率は、西側では整備前の9%から72%、東側では7%から46%と向上し、西側東側合わせて約490台[6h計]の自転車が歩道通行から車道通行へ転換した。その結果、歩道における歩行者と自転車、自転車同士の錯綜は13回から5回に減少し歩行者の安全性が向上した。

また、駐輪場の整備により自転車が駐輪場に駐輪可能となり、歩道上に駐輪する自転車が約30台減少した。その結果、歩道上の駐輪自転車が原因で狭くなっていた歩道有効幅員は、整備前の1.8mから2.9mに広がり歩行者の通行環境が向上した。



自転車通行空間の整備による効果検証結果

4. おわりに

本事業で整備した自転車通行空間や駐輪場により、歩行者や自転車の安全性の向上効果が検証できた。今後は、引き続き歩行者や自転車の安全性向上が求められている区間を抽出した上で、地域住民との合意形成を図り、自転車通行空間の整備を進め、自転車ネットワークの形成を推進していきたい。